

【定例知事会見】 1月20日

● 新型コロナウイルス感染症について

12月11日から1月3日までの24日間は、感染者が1桁で推移し、ステージ1だった。人口10万人当たりの7日間移動平均線のグラフは、全体の傾向を見るのに適しているグラフ。佐賀県は、年明けから上昇している。九州各県と比較すると、4番目に感染者が多いのが現状。福岡県、熊本県、宮崎県の順に多く、この3県は早い段階から陽性者が多かったことが影響している。

佐賀県の病床使用率は、年末に7.8%だったが、現在29.2%と上がりステージ3。このグラフが上昇し続けるとステージ4になってしまうし、下がればステージ2や1に戻る。この現状を共有しておきたい。

これは同じように計算した、保健所管内ごとのグラフ。鳥栖管内の最近1週間は、福岡県と同傾向を示している。次に多いのは唐津管内。その次は、佐賀中部管内。次に、伊万里、杵藤管内。福岡県との間を注視すべきことが、このデータからわかる。

月曜日に出した「医療環境を守るための非常警戒措置」は、一般病床の占有率を上げないためのも。救急の診療や入院患者に影響がでないよう対応してもらっている医療関係の方々に感謝申し上げる。この環境を守っていくため、病床を51床増やし、月末からは鳥栖市のホテルを加え、病床のひっ迫に備える。

オール佐賀、チーム佐賀で取り組めば回避できる。

- ・緊急事態宣言対象地域との不要不急の往来の自粛
- ・県外での会食の自粛
- ・職場（休憩や食事の時など）でマスクをとる場面に注意

これらを実践してほしい。

今回は、飲食店の営業時間の短縮を要請した。飲食店からクラスターは発生していないが、医療環境を守るため、保健所業務のひっ迫を避けるため、協力してほしい。1日4万円の協力金もセットで対応する。

ほかの業種への支援もという声を聞いている。これは、検証作業をしながら2月補正予算で対応する。

- 鳥インフルエンザ予防対策について

現在、15県で36事例が起きているが、佐賀県は発生していない。JA、農家の皆さんのおかげ。起きてしまうと、多くの人員を割くことになるので、発生は何としても避けたい。そこで、消毒命令を2月末まで延長する。本日から3回目の養鶏場の消毒用消石灰の緊急配布をしている。

香川県は13回、宮崎県は9回。コロナウイルス対策との両立で、お見舞い申し上げます。

渡り鳥が原因のため、仮に起きた場合は、初動対応をしっかりやっていく。

- 佐賀県の空の守り「かちどき」がついに佐賀の空に!

明日、空港の防災航空センターでメディア向けの内覧会を行う。

12月26日は、私も空港で出迎え、隊員とともに感動した。名前は、「かちどき」。機体番号は、「JA153L」。「JA」はジャパン。「153」はいちごさん。「L」はレディー。

後ろが開くようになっており、救急の対応ができる。騒音も小さく、小さな貴婦人といったところ。これまで、防災ヘリを持っていなかったのは佐賀県と沖縄県。市町の運航費用の支援なども含めて、やっと実現した。5つの消防本部から派遣された隊員9人が、一生懸命訓練をしている。

「かちどき」というエンブレムを作った。7つの星は、唐津の7つの離島、5消防本部と県と運航委託会社の7者の連携を表した。この7つの星で、安全第一をモットーに、救える命をひとつでも救えるように頑張っていきたい。

佐賀県防災航空センターは、九州佐賀国際空港の東側にある。5本のラインは5つの消防本部を示している。緊急消防援助隊、警察、自衛隊、海保などさまざまなヘリコプターが応援に来たときに、航空防御拠点とするため駐機場は、22機止められる。

今月から実機を使った機体・地形習熟訓練、県庁の屋上の離着陸訓練が始まる。いざというとき、県の幹部がすぐに状況把握できるような対応訓練も経て、3月28日に防災ヘリコプター「かちどき」の運用を開始する。

災害で大切なことは初動。この1機があることで、どこの災害が重大なのか、どこに多くの部隊を回すのかなどを、いち早く知ることができる。さらに、救助、救急、消火活動、森林火災も含め、

緊急要請への迅速な対応ができる。

さらに、受援体制の強化。他県から応援へりを受け入れる際、自機を持っていないと運用できない。防災へりを持つことで、運用精度はかなり向上すると期待している。

佐賀空港から、ほぼ県の全域に15分以内で到着でき、初動が早くなる効果が期待できる。今年度から、7つの離島の離着陸場を整備していく。佐賀の空の防災体制は飛躍的に向上する。

● 佐賀県は島留学を応援しています

唐津の7つの島には、たくさんの魅力がある。馬渡島以外は、15分程度で行ける島。それぞれの島に特徴がある。

島と唐津地区の大規模小学校を比較すると、唐津地区は先生1人に対し生徒17.5人。離島では、2人の先生が1人を見る計算になる。離島ならマンツーマン授業ができる。私の娘は、本人の希望で群馬の上野村に山村留学した。教育環境がすばらしかった。県は、唐津市ともに離島留学を応援する。

これまでは、家族単位で空き家を借りるか、島の祖父母の家で生活する孫留学だった。今回は、高島に寮を作り、3月から4名を受け入れる。状況を見ながら寮生を増やしたり、ほかの島でも受け入れたりと人数を増やしたい。島民の生活とうまくなじむよう展開していきたい。

キャッチフレーズは「ぜひ、体験してみませんか。島留学という選択」。都市部の皆さんに案内したい。

● 佐賀県初登場!「まちあそび人生ゲーム」開催!

佐賀豪雨からの復興を支援するため大町町で展開する。商店街をゲームのボード盤に見立て、店舗を巡るまち歩きイベント。ルーレットで出た数に従い店を巡り、通貨のやり取りをする。ゴール時の所持金額で順位が決まる。ルーレットの偶然が、出会いを呼び起こすリアル人生ゲーム。

ゲームを通じて、商店街の魅力にふれ、会話をしながら大町の人情豊かな商店街を巡る。気に入る店を見つけたり、知らなかった店に入るきっかけにもなったり。また、通貨のやり取りは子供たちの学びになる。商店側は、自分の店の長を再確認でき、ウィン・ウインの関係が作れる。

2月21日のイベントでは、町内30店舗がゲームの「マス」になる。白石高校の生徒たちがマップ作成に協力。SAGATOCOで、2月20日から「歩こう。佐賀県。」スタンプラリー大町バージョン

ンを公開。

3月27日は、佐賀市の中央大通り周辺でも開催。事前申込制で参加を受付中。

- 吉野ヶ里歴史公園にドッグラン登場!

「OPEN-AIR 佐賀」のひとつ。吉野ヶ里歴史公園北口のサービスセンターにドッグランを設置。有料で、愛犬が伸び伸びと飛び回れるような場所。吉野ヶ里歴史公園は、今年開園 20 周年を迎える。さまざまな仕掛けも増やしていきたい。

- 「KAWARU プロジェクト」展開中!

川と身近に接する環境をつくり、川を守っていくためのプロジェクト。川で活動する団体の多様な活動を支援する。“KAWARU”交流会は、1月30日14時30分から、県庁のSAGACHIKAでさまざまな川に関する取組を14団体が発表する。

コロナ対策中ではあるが、先を見る目を持ちながら、前を向いて頑張っていきたい。

【記者からの質問】

新型コロナウイルス感染症について

時事通信／2月補正予算で、どのような業種にどの程度の支援をするのか。

知事／基本は3つの観点で支援を検討中。

- ・医療、介護、エッセンシャルワーカー
- ・飲食店以外の事業者
- ・将来ある子供たち

NHK／時短要請の位置づけ。さらに悪化した場合の措置や想定している内容は？

知事／医療環境を守るための非常警戒措置で、時短をすることでステージ2に下げたい。全国の傾向を見ると、飲食店関係の広がりから保健業務がひっ迫してきている。飲食店には、全体としての対策の一端を担ってほしい。

「緊急」という言葉の取り扱いに注意しないといけない。阪神・淡路大震災で、災害対策基本法により、「非常災害対策本部」ができたが、「緊急災害対策本部」にはならなかった。災害緊急事態の布告は、経済統制を伴うもの。国も政府も逡巡し、災害対策基本法ではなく、緊急本部をつくった。

「緊急」には強い措置を伴うと私は意識している。原発にも「原子力緊急事態宣言」があり、避難や屋内退避をお願いする強い形になる。東日本大震災では、災害対策基本法が改正され「緊急」が使いやすくなった。東日本大震災では「緊急災害対策本部」、福島原発では「原子力緊急事態宣言」がなされた。

私の意識の中では、「緊急」は実効性が伴い、国民と「本当に大変なことだ」という思いを共有する必要がある。だから、佐賀県民に「緊急事態だ」と言うときは、「家から出ないでください」というとき。そのために今回は使わなかった。

現在は、医療環境を守らなければいけない。みんなの力でステージ2に下げたい。言葉が先に走ってしまうことは避けたい。ご理解を。

NHK／いろんな数値があるが、目安になる指標は？

知事／国で示す数値が、1つの指標になる。現在は、ステージ3相当。病床使用率を25%以下にしたい。50%を超えるとステージ4になる。

もう一つは、新規感染者数がどれだけ出るか。昨日は6人、一昨日は11人。これから数日間の既陽性者の接触者ではない人の数字が大事になる。我々は、一つ一つの関連性を分析し、今が医療環境を守るために大切な時期だと考えている。我々が措置したことの結果が出るのは、1週間ほど先になるので、厳しめの予測をしながら対応していく。

NHK／ワクチンの接種に関する県の役割は？また、どのような手順になるのか。

知事／ワクチンに関しては、誰もが気になるところ。県には、調整機能に期待する声大きい。ワクチンチームは作った。まず、県と市町の役割分担、それぞれがどこに責任を持つのか。県は、市町から意見を聞きながら全体の大きな方針を作っていく。市町は、接種の実施に責任を持ってもらう。

そのあとの流れは、国から医療従事者、高齢者へと示されている。3種類のワクチンは、それぞれ取り扱い方法が違うし、どのような形で送られてくるのか、またどのような形で市町に分配するのかなど、まだ不確定な部分が多い。事前準備はやっておく。県民の皆さんは、情報に惑わされず、県の情報を注視してほしい。

新幹線西九州（長崎）ルート関連

STS／来年秋、九州新幹線西九州ルートが暫定開業される。武雄温泉駅から長崎駅間が新幹線というリレー方式を永久に続ける形でもいいと考えるのか。

また、武雄温泉駅がターミナル駅になる。武雄にプラス効果があるとの考えか。

知事／九州新幹線西九州ルートは、長崎県の思いが軸に展開されてきた。我々は、スーパー特急かフリーゲージトレインなら対応すると言って合意した。永久に続けるかどうかは、私がお答えすることではない。

長崎県、JR九州、国との議論は続ける。まずは、来年の開業に向けデスティネーションキャンペーンを成功させる。当分、武雄がターミナル駅になるからには、武雄や嬉野が振興できるよう全力で取り組みたい。

また、フル新幹線を求める人がいる。その場合、ルートは佐賀駅だけではなく、空港や山を通るルートを主張する人もいる。それぞれの効果や検証もできていない。それらを含めて議論をさせてほしい。我々は、協議を開催する準備はできている。

STS／武雄がターミナル駅になる効果を。

知事／多くの列車が、武雄で乗り換えて長崎方面と佐世保方面に展開できる。逆に言えば、武雄から福岡に直通で行ける。この環境を大いに活かしていくべき。

武雄と大村市が成長都市。武雄市の特徴は、子育てしやすい、住環境がいい、地価が安いメリットがある。長崎と連携しデスティネーションキャンペーンを成功させ、西九州全体の振興を図りたい。

東京五輪・パラリンピックについて

西日本新聞／新型コロナウイルスの感染拡大で開催を危ぶむ声がある。それに対する所見を。また、半年後に予定されている事前キャンプの準備の進捗や方法を教えてほしい。

知事／開催を前提に、事前キャンプの準備を進めていく。

7月の下旬、フィンランドとニュージーランドのチームがキャンプを張ることになっている。県民との交流は難しいだろう。コロナ対策の検査を定期的に受けてもらい東京に送ることになる。もし、来てくれるならレガシーが残るようなものにしたい。

聖火リレーも含め国の方針を待っている。受け入れ準備に全力を尽くすのみ。

県民の皆さまへ

新型コロナウイルス感染症に感染された方や、その家族、濃厚接触者に対して、不当な差別や偏見があります。

佐賀県は慈しみ合う県。情報の詮索、不当な差別、偏見、いじめがないようお願いします。